



Cisco Jabber for Windows のインストール

インストールのオプションを確認し、Cisco Jabber for Windows のインストールのさまざまな方法を学習します。インストールを開始する前に、正常な導入の要件について理解します。

- [インストレーションの概要, 1 ページ](#)
- [コマンドラインの使用, 4 ページ](#)
- [MSI の再パッケージ化, 9 ページ](#)
- [MSI の手動による実行, 12 ページ](#)
- [グループ ポリシーを使用した導入, 14 ページ](#)
- [Cisco Medianet のインストール, 16 ページ](#)
- [Cisco Jabber for Windows のアンインストール, 17 ページ](#)

インストレーションの概要

次のオペレーティング システムに Cisco Jabber for Windows をインストールできます。

- Microsoft Windows 7 32 ビット
- Microsoft Windows 7 64 ビット
- Microsoft Windows Vista 32 ビット
- Microsoft Windows Vista 64 ビット
- Microsoft Windows XP 32 ビット (Service Pack 3)



(注) Cisco Jabber for Windows には、Microsoft .NET Framework または Java モジュールは必要ではありません。

インストール要件の詳細については、ハードウェア要件およびソフトウェア要件のトピックを参照してください。

インストール オプション

Cisco Jabber for Windows で提供される MSI インストール パッケージでは、次のインストール オプションが用意されています。

コマンドライン経由のインストール

コマンドライン ウィンドウで引数を使用してインストール プロパティを指定して、Cisco Jabber for Windows をインストールできます。

組織間に渡る複数のインスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択しません。

詳細については、コマンドラインの使用を参照してください。

MSI の再パッケージ化

Microsoft Orca などのプログラムを使用して、Cisco Jabber for Windows のインストール パッケージをカスタマイズできます。MSI を再パッケージ化すると、デフォルトのインストール パッケージを開いて必要なインストール プロパティを指定して、カスタムインストール パッケージを保存できます。

同じインストール プロパティを持つインストール パッケージを配布する場合は、このオプションを選択します。

詳細については、カスタム インストーラの使用を参照してください。

MSI の手動による実行

クライアント コンピュータのファイル システムで MSI を手動で実行してから、Cisco Jabber for Windows の初回起動時に接続のプロパティを指定できます。

テストまたは評価用に単一インスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。

詳細については、MSI の手動による実行を参照してください。

インストールの設定要件

Cisco Jabber for Windows の設定オプションを確認して、インストール前に設定ファイルを作成する必要があるかどうかを確認します。

デフォルト設定

ほとんどの環境で、Cisco Jabber for Windows はプレゼンス サーバに接続してディレクトリ照会を実行するための設定を必要としません。

オンプレミス導入で、Cisco Jabber for Windows は Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence を自動的に検出できるように、_cuplogin SRV レコードを使用しま

す。プレゼンス サーバドメイン上の DNS サーバの `_cuplogin` サービス名の DNS SRV レコードを追加する場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にそのプレゼンス サーバに接続できます。

オンプレミス導入のディレクトリ統合では、Cisco Jabber for Windows は拡張ディレクトリ統合をデフォルトで使用します。Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールした場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にディレクトリ サービスを検出し、ドメイン内のグローバル カタログに接続します。

クラウドベース導入では、Cisco WebEx Messenger は Cisco Jabber for Windows にプレゼンス機能と連絡先の解決を提供します。Cisco Jabber for Windows のすべての設定は、Cisco WebEx Administration Tool を使用して実行します。ただし、追加オプションを使用して Cisco Jabber for Windows をハイブリッドクラウドベース導入で設定できます。

カスタム設定

次の場合に Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。

- Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールしない場合。
- EDI ではなく、Cisco Unified Communications Manager ユーザデータ サービス またはサポートされている別の LDAP ディレクトリに接続する場合。
- Cisco Jabber for Windows がディレクトリ サービスを正しく使用できるようにカスタム設定を指定する必要がある場合。カスタム ディレクトリ設定には、次の内容が含まれます。
 - 属性のマッピング
 - 接続の設定
 - 連絡先写真の取得の設定
 - ディレクトリ検索の設定
 - ドメイン内フェデレーションの設定
- 次のようなカスタム コンテンツを使用して展開する場合。
 - ユーザが問題レポートを送信できるスクリプト
 - 自動アップデートを有効にするファイル
 - HTML コンテンツを表示するためのカスタム埋め込みタブ
 - ユーザが忘れてしまったパスワードをリセットまたは取得できる URL
- 次のようなカスタム ポリシー設定を使用して展開する場合。
 - 画面キャプチャの無効化
 - ファイル転送の無効化
 - ビデオ コールの無効化
- 展開で認証情報設定を指定する場合。

コマンドラインの使用

インストール時にプロパティを Cisco Jabber for Windows に適用するために、コマンドラインの引数を指定できます。

はじめる前に

ソフトウェア設定管理プログラムを使用して導入するために Cisco Jabber for Windows を準備します。

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi
```

ステップ 3 コマンドライン ウィンドウでコマンドラインの引数を `parameter=value` のペアで指定します。次に、Cisco Jabber for Windows をインストールするためのコマンドの例を示します。

オンプレミスの導入

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi TYPE=CUP ADDRESS=1.2.3.4  
DOMAIN=domain.com LANGUAGE=1033 /quiet
```

ここで、

TYPE=CUP により、Cisco Unified Presence がプレゼンス サーバとして指定されます。
ADDRESS=1.2.3.4 により、1.2.3.4 がプレゼンス サーバの IP アドレスとして指定されます。
DOMAIN=domain.com により、domain.com がプレゼンス サーバのドメイン名として指定されます。
LANGUAGE=1033 により、英語が言語として指定されます。
/quiet により、サイレントインストールが指定されます。

クラウドベースの導入

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi TYPE=WEBEX SSO_ORG_DOMAIN=domain.com /quiet
```

ここで、

TYPE=WEBEX により、Cisco WebEx Messenger がプレゼンス サーバとして指定されます。
SSO_ORG_DOMAIN=domain.com により、domain.com が SSO のドメイン名として指定されます。
/quiet により、サイレントインストールが指定されます。

コマンドラインの引数の詳細については、「コマンドライン引数」を参照してください。

ステップ 4 コマンドを実行して、Cisco Jabber for Windows をインストールします。

関連トピック

[コマンドライン引数, \(5 ページ\)](#)

コマンドライン引数

次の表に、Cisco Jabber for Windows をインストールするために使用されるコマンドライン引数を説明します。

引数	値	説明
TYPE	CUP WebEx	<p>プレゼンス サーバのタイプを定義します。 次のいずれかの値を設定します。</p> <p>CUP</p> <p>プレゼンス サーバとして Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence を定義します。</p> <p>WebEx</p> <p>プレゼンス サーバとして Cisco WebEx Messenger を定義します。</p>
ADDRESS	プレゼンス サーバのアドレス	<p>プレゼンス サーバのアドレスを指定します。 値として次のいずれかを設定します。</p> <p>ホストネーム</p> <p>例：hostname</p> <p>IP アドレス</p> <p>例：123.45.254.1</p> <p>完全修飾ドメイン名</p> <p>例：hostname.domain.com</p> <p>プレゼンス サーバがドメイン ネーム システム サービス レコード (DNS SRV) をサポートしていない場合は、この引数の値を指定する必要があります。たとえば、Cisco Unified Presence 8.5.2 では DNS SRV をサポートしていません。</p>

引数	値	説明
DOMAIN	ドメイン名 (Domain Name)	<p>プレゼンス サーバのドメイン名を識別します。この引数の値として、ドメイン名を指定します。たとえば、<code>domain.com</code> などです。</p> <p>プレゼンス サーバのドメインが、Cisco Jabber for Windows がインストールされているワークステーションのドメインと同じではない場合は、この引数を指定する必要があります。</p> <p>次のように、プレゼンス サーバのドメインを確認するための適切な手順を実行します。</p> <p>Cisco Unified Presence</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。 2 [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。 3 [設定 (Settings)] を選択します。 4 [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドの値としてドメイン名を確認します。 <p>Cisco Unified Communications IM and Presence</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] インターフェイスを開きます。 2 [システム (System)] > [クラスタ トポロジ (Cluster Topology)] を選択します。 3 [設定 (Settings)] を選択します。 4 [ドメイン名 (Domain Name)] フィールドの値としてドメイン名を確認します。

引数	値	説明
LANGUAGE	10 進数の LCID	<p>Cisco Jabber for Windows が使用する言語のロケール ID (LCID) を 10 進数で定義します。値は、サポートされる言語に対応する、10 進数の LCID でなくてはなりません。</p> <p>たとえば、次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1033 は英語です。 • 1036 はフランス語です。 • 1034 はスペイン語です。 • 2052 は簡体字中国語です。 <p>この引数は省略可能です。値を指定しなかった場合は、Cisco Jabber for Windows はデフォルトとしてシステム ロケールの言語が使用されます。</p> <p>指定可能な言語のリストについては、サポートされる言語のトピックを参照してください。</p>
FORGOT_PASSWORD_URL	URL	<p>ユーザがパスワードを忘れたか、リセットする必要がある場合に、Cisco Jabber for Windows ユーザに示される URL を指定します。</p> <p>Cisco Jabber for Windows の機能を有効にするために、この引数を指定する必要はありません。ただし、ユーザが新しいパスワードを取得できるよう、有効な URL を指定する必要があります。</p> <p>(注) クラウドベース導入では、パスワードを忘れた場合に使用する URL を Cisco WebEx Administration Tool で指定できます。ただし、Cisco Jabber for Windows はユーザがサインインするまでは、パスワード忘れの URL を取得することができません。</p>
SSO_ORG_DOMAIN	完全修飾ドメイン名	<p>シングルサインオン (SSO) の完全修飾ドメイン名を指定します。</p> <p>この引数は、Cisco WebEx Messenger で SSO を使用するために必要であり、クラウドベース導入にだけ適用されます。</p>

引数	値	説明
TFTP_FILE_NAME	Filename	<p>TFTP サーバ上にある、グローバル設定ファイルの一意の名前を指定します。グローバル設定ファイルが、デフォルト名 (jabber-config.xml) を使用しない場合は、この引数の値を指定する必要があります。</p> <p>値として、未修飾か完全修飾のファイル名を指定できます。この引数の値として指定した名前は、TFTP サーバ上のその他のグローバル設定ファイルよりも優先されます。</p> <p>この引数は省略可能です。</p>

関連トピック

[コマンドラインの使用, \(4 ページ\)](#)

[カスタム インストーラの使用, \(9 ページ\)](#)

サポートされる言語

次の表に、Cisco Jabber for Windows でサポートされる言語を示します。

アラビア語	フランス語	ポルトガル語 (ブラジル)
カタロニア語	ヘブライ語	ポルトガル語 (ポルトガル)
チェコ語	イタリア語	ロシア語
デンマーク語	日本語	スウェーデン語
ドイツ語	韓国語	タイ語
ギリシャ語	ノルウェー語	トルコ語
英語	オランダ語	中国語 (簡体字)
スペイン語	ポーランド語	中国語 (繁体字)
フィンランド語		



(注) Cisco Jabber for Windows では、すべてのサブ言語のロケール ID はサポートしていません。たとえば、フランス語 (カナダ) を指定した場合は、Cisco Jabber for Windows ではフランス語 (フランス) が使用されます。

本リリース以降、Cisco Jabber for Windows では中国語 (簡体字) と中国語 (繁体字) のロケール ID のみをサポートします。Cisco Jabber for Windows では、中国語のその他のサブ言語のロケール ID はサポートしません。たとえば、中国語 (シンガポール) を指定した場合は、Cisco Jabber for Windows では英語が使用されます。

ロケール ID の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- *Microsoft Windows Locale Code Identifier (LCID) Reference*
- *Locale IDs Assigned by Microsoft*

関連トピック

- [Microsoft Windows Locale Code Identifier \(LCID\) Reference](#)
- [Locale IDs Assigned by Microsoft](#)

MSI の再パッケージ化

必要なインストールプロパティを含むカスタム MSI を作成するために CiscoJabberSetup.msi を再パッケージ化できます。

カスタム インストーラの使用

CiscoJabberProperties.mst トランスフォーム ファイルを使用して、CiscoJabberSetup.msi を変更し、カスタム インストーラを作成します。



(注) トランスフォーム ファイルの適用によって、CiscoJabberSetup.msi のデジタル シグニチャは変更されません。

はじめる前に

- 1 Cisco.com から Cisco Jabber for Windows 管理パッケージをダウンロードします。
- 2 CiscoJabberProperties.mst を Cisco Jabber for Windows 管理パッケージからファイル システムにコピーします。
- 3 Microsoft の Web サイトから Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4 をダウンロードしてインストールします。

Microsoft Orca を使用して、CiscoJabberSetup.msi のカスタムバージョンを作成します。Microsoft Orca は、Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4 の一部として使用できます。

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 Microsoft Orca で CiscoJabberSetup.msi を開きます。

- a) [ファイル (File)] > [開く (Open)] を選択します。
- b) ファイルシステムで CiscoJabberSetup.msi の場所を参照します。
- c) CiscoJabberSetup.msi を選択し、[開く (Open)] を選択します。

CiscoJabberSetup.msi が Microsoft Orca で開きます。インストーラのテーブルのリストが [テーブル (Tables)] ペインに表示されます。

ステップ 3 CiscoJabberProperties.mst を適用します。

- a) [トランスフォーム (Transform)] > [トランスフォームの適用 (Apply Transform)] を選択します。
- b) ファイルシステムで CiscoJabberProperties.mst の場所を参照します。
- c) CiscoJabberProperties.mst を選択し、[開く (Open)] を選択します。

ステップ 4 [テーブル (Tables)] ペインのテーブルのリストから [プロパティ (Property)] を選択します。CiscoJabberSetup.msi のプロパティのリストがアプリケーション ウィンドウの右側のパネルに表示されます。

CiscoJabberProperties.mst では、次のプロパティを適用します。

- DOMAIN
- LANGUAGE
- TFTP_FILE_NAME
- ADDRESS
- TYPE
- SSO_ORG_DOMAIN
- FORGOT_PASSWORD_URL

これらのプロパティは、コマンドラインの引数に対応し、同じ値が設定されています。各プロパティと指定できる値の説明については、「コマンドライン引数」を参照してください。

ステップ 5 必要に応じてプロパティの値を指定するか、不要なプロパティを削除します。

ステップ 6 カスタム インストーラで埋め込みストリームを保存できるようにします。

- a) [ツール (Tools)] > [オプション (Options)] を選択します。
- b) [データベース (Database)] タブを選択します。
- c) [[名前を付けて保存 (Save As)] の選択時に埋め込みストリームをコピーする (Copy embedded streams during 'Save As')] を選択します。

d) [適用 (Apply)] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 7 カスタム インストーラを保存します。

- a) [ファイル (File)] > [名前を付けて変換を保存 (Save Transformed As)] を選択します。
- b) ファイル システム上の場所を選択してインストーラを保存します。
- c) インストーラの名前を指定してから、[保存 (Save)] を選択します。

次の作業

ソフトウェア設定管理プログラムを使用して展開するためにカスタム インストーラを準備します。

関連トピック

[コマンドライン引数, \(5 ページ\)](#)

[Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4](#)

カスタム トランスフォーム ファイルの作成

カスタム トランスフォーム ファイルには、インストーラに適用できるプロパティおよび値が含まれます。たとえば、インストール時に Cisco Jabber for Windows のデフォルト言語をフランス語に設定する トランスフォーム ファイルと、デフォルト言語をスペイン語に設定するもう 1 つの トランスフォーム ファイルを作成できます。その後、各 トランスフォーム ファイルを CiscoJabberSetup.msi に適用し、それぞれの言語にインストーラを 1 つずつ作成できます。

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 CiscoJabberSetup.msi を開き、CiscoJabberProperties.mst を適用します。
詳細については、カスタム インストーラの使用を参照してください。

ステップ 3 該当するインストーラ プロパティに値を指定します。

ステップ 4 トランスフォーム ファイルを生成して保存します。

- a) [トランスフォーム (Transform)] > [トランスフォームの生成 (Generate Transform)] を選択します。
- b) トランスフォーム ファイルを保存するファイル システムの場所を選択します。
- c) トランスフォーム ファイルの名前を指定して [保存 (Save)] を選択します。

作成した トランスフォーム ファイルは、*file_name.mst* として保存されます。この トランスフォーム ファイルを適用して、CiscoJabberSetup.msi のプロパティを変更できます。

MSI の手動による実行

CiscoJabberSetup.msi を手動で実行して Cisco Jabber for Windows の単一インスタンスをインストールし、[接続設定 (Connection Settings)] ダイアログボックスで接続設定を指定できます。

- ステップ 1** CiscoJabberSetup.msi を起動します。
インストールプログラムにより、インストールプロセスのウィンドウが開きます。
- ステップ 2** 手順に従ってインストールプロセスを完了します。
- ステップ 3** Cisco Jabber for Windows を起動します。
- ステップ 4** [ファイル (File)] > [接続設定の変更 (Change connection settings)] を選択します。
[接続設定 (Connection Settings)] ダイアログボックスが開きます。
- ステップ 5** 電話デバイスの基本接続設定を指定します。

プロパティ	説明
サーバタイプ (Server type)	<p>プレゼンスサーバのタイプを定義します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <p>Cisco WebEx</p> <p>Cisco WebEx Messenger をプレゼンスサーバとして指定します。</p> <p>Cisco Unified Presence</p> <p>Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence をプレゼンスサーバとして指定します。</p>

プロパティ	説明
ログイン サーバ (Login server)	<p>Cisco Jabber for Windows でプレゼンス サーバを自動的に検索するかどうかを定義します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <p>デフォルト サーバを使用 (Use the default server)</p> <p>Cisco Jabber for Windows でプレゼンス サーバを自動的に検索することを指定します。</p> <p>次のファイル サーバを使用 (Use the following File Server)</p> <p>プレゼンス サーバの接続プロパティを指定できるようにします。プレゼンス サーバでドメインネームシステムサービスレコード (DNS SRV) がサポートされていない場合に、このオプションを選択します。たとえば、Cisco Unified Presence 8.5.2 では DNS SRV をサポートしていません。</p>
サーバ アドレス (Server address)	<p>プレゼンス サーバを識別します。このプロパティの値として次のいずれかを指定します。</p> <p>ホストネーム</p> <p>例: <i>hostname</i></p> <p>IP アドレス</p> <p>例: <i>123.45.254.1</i></p> <p>完全修飾ドメイン名</p> <p>例: <i>hostname.domain.com</i></p>
ドメイン (Domain)	<p>プレゼンス サーバが実行されるドメイン名を識別します。このプロパティの値としてドメイン名を指定します (例: <i>domain.com</i>)。</p> <p>プレゼンス サーバが、Cisco Jabber for Windows がインストールされているワークステーションのドメインと異なる場合に、このプロパティを指定する必要があります。</p>

ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。

グループポリシーを使用した導入

Microsoft Group Policy Management Console (GPMC) を使用して、グループポリシー付きで Cisco Jabber for Windows を Microsoft Windows Server にインストールします。



(注) グループポリシーを使用して Cisco Jabber for Windows をインストールするには、Cisco Jabber for Windows を導入する予定のすべてのコンピュータまたはユーザが同じドメインにある必要があります。

はじめる前に

インストールパッケージの言語コードを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Microsoft Orca を起動します。

Microsoft Orca は、Microsoft Web サイトからダウンロードできる Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4 の一部として提供されます。

- 2 CiscoJabberSetup.msi を開きます。

- a [ファイル (File)] > [開く (Open)] を選択します。
- b ファイルシステムで CiscoJabberSetup.msi の場所を参照します。
- c CiscoJabberSetup.msi を選択し、[開く (Open)] を選択します。

- 3 [表示 (View)] > [要約情報 (Summary Information)] を選択します。

- 4 [言語 (Language)] フィールドを見つけます。

- 5 インストール言語に対応するロケール ID を設定します。

たとえば、インストールの言語として英語を指定するには、ロケール ID に 1033 を設定します。

- 6 [OK] を選択します。

- 7 インストールパッケージを保存します。

インストールパッケージを保存するために [ファイル (File)] > [名前を付けて保存 (Save As)] を選択した場合は、組み込みストリームを有効にする必要があります。

- 1 [ツール (Tools)] > [オプション (Options)] を選択して [データベース (Database)] タブを選択します。
- 2 [[名前を付けて保存 (Save As)] の選択時に埋め込みストリームをコピーする (Copy embedded streams during 'Save As')] を選択します。

3 [適用 (Apply)] を選択し、[OK] を選択します。

- ステップ 1** 導入のためのソフトウェア配布ポイントにインストールパッケージをコピーします。
Cisco Jabber for Windows を導入する予定のすべてのコンピュータまたはユーザは、分散ポイントのインストールパッケージにアクセスできる必要があります。
- ステップ 2** [スタート (Start)] > [ファイル名を指定して実行 (Run)] を選択し、次のコマンドを入力します。
GPMC.msc
[グループポリシー管理 (Group Policy Management)] コンソールが開きます。
- ステップ 3** 新しいグループポリシー オブジェクトを作成します。
- 左側のペインの適切なドメインを右クリックします。
 - [このドメインに GPO を作成してここにリンクする (Create a GPO in this Domain, and Link it here)] を選択します。
[新しい GPO (New GPO)] ウィンドウが開きます。
 - [名前 (Name)] フィールドにグループポリシー オブジェクトの名前を入力します。
 - デフォルト値をそのままにするか、[発信元の開始 GPO (Source Starter GPO)] ドロップダウン リストから適切なオプションを選択し、次に [OK] を選択します。
新しいグループポリシーが、ドメインのグループポリシーのリストに表示されます。
- ステップ 4** 導入の範囲を設定します。
- 左側のペインのドメインの下からグループポリシー オブジェクトを選択します。
グループポリシー オブジェクトが右側のペインに表示されます。
 - [スコープ (Scope)] タブの [セキュリティ フィルタリング (Security Filtering)] セクションで、[追加 (Add)] を選択します。
[ユーザ、コンピュータ、またはグループの選択 (Select User, Computer, or Group)] ウィンドウが開きます。
 - Cisco Jabber for Windows を導入するコンピュータとユーザを指定します。
- ステップ 5** インストールパッケージを指定します。
- 左側のペインのグループポリシー オブジェクトを右クリックして、[編集 (Edit)] を選択します。
[グループポリシー管理エディタ (Group Policy Management Editor)] が開きます。
 - [コンピュータの設定 (Computer Configuration)] を選択して、[ポリシー (Policies)] > [ソフトウェアの設定 (Software Settings)] を選択します。
 - [ソフトウェアのインストール (Software Installation)] を右クリックして、[新規 (New)] > [パッケージ (Package)] を選択します。
 - [ファイル名 (File Name)] の横にインストールパッケージの場所を入力します (例：
\\server\software_distribution)。
重要 インストールパッケージの場所として Uniform Naming Convention (UNC) パスを入力する必要があります。UNC パスを入力しない場合、グループポリシーは Cisco Jabber for Windows を導入できません。

- e) インストールパッケージを選択して、[開く (Open)] を選択します。
- f) [ソフトウェアの導入 (Deploy Software)] ダイアログボックスで、[割り当て済み (Assigned)] を選択し、[OK] を選択します。

各コンピュータの次回起動時に、グループポリシーによって Cisco Jabber for Windows がそれぞれのコンピュータにインストールされます。

Cisco Medianet のインストール

Cisco Medianet では、Cisco Prime Collaboration Manager および Cisco Medianet 対応ルータと連動する Microsoft Windows サービスを提供し、Cisco Jabber for Windows がネットワークで遅延やパケット損失を最小限に抑えて音声メディアとビデオメディアを送信できるようにします。

Cisco Jabber for Windows では、音声メディアまたはビデオメディアを送信する前に、Cisco Medianet サービスをチェックします。そのサービスがコンピュータ上に存在しない場合には、Cisco Jabber for Windows によってフロー情報が Cisco Medianet サービスに提供されます。その後、サービスはネットワークに信号を送信するため、ルータがフローを分類して Cisco Jabber for Windows のトラフィックにプライオリティを設定できるようになります。サービスが存在しない場合には、Cisco Jabber for Windows ではサービスを使用せずに、通常どおりに音声メディアとビデオメディアを送信します。ただし、Cisco Jabber for Windows では、音声コールまたはビデオコールごとに Cisco Medianet サービスをチェックします。

はじめる前に

トラフィック マーキング用に Cisco Medianet をインストールするには、次の作業を行う必要があります。

- Cisco Prime Collaboration Manager をインストールします。
- 適切な場合には、Cisco Medianet に対して有効なルータまたはスイッチをインストールします。
- Cisco Medianet がアプリケーションに適用するメタデータ属性を処理するために、ネットワークを設定します。

ネットワーク内のすべてのデバイスが Cisco Medianet をサポートする必要があるわけではないことに注意してください。最初のステップは、Cisco Medianet からのメタデータ属性に基づいてトラフィックにプライオリティを設定する必要があります。トラフィックがネットワークを通過するときに、他のすべてのデバイスは、トラフィックを異なる方法で処理するためにそれらのデバイスでポリシーを設定していない限り、そのトラフィックにプライオリティを設定する必要があります。ネットワーク設定の詳細については、Medianet Knowledge Base Portal を参照してください。

**重要**

- Cisco Jabber for Windows では、Cisco Medianet バージョン 3.1 以降をサポートしています。
- Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Windows Vista での Cisco Medianet をサポートしていません。

-
- ステップ 1** Cisco.com にある Cisco Jabber for Windows のダウンロードサイトから Cisco Media Services Interface のインストールプログラムをダウンロードします。
- ステップ 2** Cisco Jabber for Windows をインストールする各コンピュータに Cisco Medianet サービスをインストールします。
サービスのインストールについては、該当する Cisco Medianet のマニュアルを参照してください。
-

関連トピック

[Cisco Jabber for Windows のダウンロードサイト](#)
[Medianet Knowledge Base Portal](#)

Cisco Jabber for Windows のアンインストール

コマンドラインまたは Microsoft Windows コントロールパネルを使用して、Cisco Jabber for Windows をアンインストールできます。このトピックでは、コマンドラインを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールする方法について説明します。

コマンドラインを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールするには、MSI または製品コードを使用します。MSI がファイルシステムで使用できる場合、MSI を使用します。ただし、MSI がファイルシステムで使用できない場合には、製品コードを使用します。

-
- ステップ 1** コマンドライン ウィンドウを開きます。
- ステップ 2** 次のいずれかのコマンドを入力して Cisco Jabber for Windows をアンインストールします。

オプション	コマンド
MSI を使用したアンインストール	<pre>msiexec.exe /x path_to_CiscoJabberSetup.msi</pre> <p>次に、MSI を使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールするためのコマンドの例を示します。</p> <pre>msiexec.exe /x C:\Windows\Installer\CiscoJabberSetup.msi /quiet</pre> <p>ここで、/quiet により、サイレント アンインストールが指定されます。</p>
製品コードを使用したアンインストール	<pre>msiexec.exe /x product_code</pre> <p>次に、製品コードを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールするためのコマンドの例を示します。</p> <pre>msiexec.exe /x 45992224-D2DE-49BB-B085-6524845321C7 /quiet</pre> <p>ここで、/quiet により、サイレント アンインストールが指定されます。</p> <p>Cisco Jabber for Windows の製品コードを検索するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Microsoft Windows レジストリ エディタを開きます。 2 レジストリ キー HKEY_CLASSES_ROOT\Installer\Products を見つけます。 3 [編集 (Edit)] > [検索 (Find)] を選択します。 4 [検索 (Find)] ウィンドウの [検索 (Find what)] テキスト ボックスに Cisco Jabber と入力し、[次を検索 (Find Next)] を選択します。 5 ProductIcon レジストリ キーを見つけてます。 <p>製品コードは、 C:\Windows\Installer\{product_code}\ARPPRODUCTICON.exe のように ProductIcon レジストリ キーの値データに示されます。</p> <p>(注) 製品コードは、Cisco Jabber for Windows の各バージョンによって変わります。</p>

コマンドによって、Cisco Jabber for Windows がコンピュータから削除されます。